



■ 現状と課題

つくば駅周辺は、商業施設等を徒歩で回遊するには各施設間の距離があるため、回遊性に乏しいことなどにより、市内中心部の賑わいの低下が顕在化している。

■ 目指す社会

パーソナルモビリティのシェアリングサービスが導入され、つくば駅周辺の回遊性が向上し、まちの賑わいが創出される。また、ラストワンマイルの移動手段として利用されることで、自家用車に依存しない社会を目指す。

■ R6取組概要

パーソナルモビリティのシェアリングサービス実装に向け、つくば駅を起点としたパーソナルモビリティのシェアリングサービスの実証を実施し、つくば駅周辺の回遊性の向上やつくば駅周辺の賑わい創出の効果について検証するとともに、当該サービスのサービス実装に向けて最適な運営方法の検討や課題の抽出を図る。

■ R6実証内容・結果

概要	- 利用者アンケートやGPSデータによる移動履歴の分析 - 地域通貨アプリケーション「クラフトつくば」を活用したポイント付与や「クラフトつくば」加盟店情報の利用者へのプッシュ通知の有用性検証、イベント情報を発信するつくモビ専用Webアプリの検証等の回遊性向上に向けた取組を実施
日程	①R6年7月20日～R6年10月27日の土日祝のみ ※8月24日、25日を除く ②R6年12月17日～R7年3月16日 ※12月28日～1月5日を除く
実施者	つくば市、つくばまちなかデザイン、関彰商事、ミライデザインパワー、つくばスマートシティ協議会
対象	市内外在住、年齢問わず利用可能 (乗員要件：身長140～185cm 体重100kg以内※荷物含む)
実証結果	- 利用者数：292件（うち、「クラフトつくば」ポイント獲得人数：73人） - 利用者アンケートの結果では、安全性について一定の高評価（6割以上が安全と回答）があった一方で機体の速度が遅いと回答する利用者が半数に上った。



C+walk
シリーズ



Striemo

■ 今後の展開

- R8年度のつくモビのサービス実装を目指し、無人の貸出返却拠点（ポート）の整備、複数のポートの利用を可能とする利用システムの構築、持続可能なサービスモデルの構築に向けたサービス実証などに取り組む。
- 「クラフトつくば」等との連携などつくモビの利用増及びつくば駅周辺の回遊性の向上につながる取組を実施する。



■ 現状と課題

自動車の交通分担率が6割を超えるなど自家用車依存が顕著で、特に市内周辺部において免許返納後の高齢者等の移動に大きな課題がある。

■ 目指す社会

パーソナルモビリティがラストワンマイルの移動手段として本格的に社会実装され、公共交通等との連携により日常の移動手段となっている。

■ R6取組概要

通勤や通学等の日常の移動手段として活用できるつくモビのサービス実装に向けて、通勤・通学等における移動手段としてのパーソナルモビリティの有用性を検証する。

■ R6実証内容・結果

概要	- 一般モニターに12日間パーソナルモビリティ「Striemo」を貸し出し、通勤や通学の移動手段として活用する実証を実施 - つくば駅周辺及び竹園地区にパーソナルモビリティの駐車ができる駐機場（ポート）を設置
日程	R6年12月2日～R7年3月14日 ※12月29日～1月3日を除く
実施者	つくば市、つくばスマートシティ協議会、関彰商事、つくばまちなかデザイン
モニター要件	つくば駅市周辺2km圏内に在住し、通勤・通学でつくば駅を利用している学生又は社会人（18歳以上） 等
実証結果	28名のモニターが実証に参加 - モニター一人当たり平均利用日数は実証期間中(12日間)5.2日 - アンケートの結果、速度やポートの設置位置への改善要望が多く、モニターの全員が速度について遅いと回答した。



■ 今後の展開

- アンケートの回答や実証の結果を踏まえ、通勤・通学で利用できるシェアリングサービスの実装に向け、運営方法等を検証
<検証項目> 日中の時間帯の機体の有効利用（シェアリングの運営方法の検討） ポートの設置位置、サービスモデル(利用料金等)
- パーソナルモビリティの速度が遅いと感じている課題に対しては、最高速度引き上げに向けて警察庁との協議や実証実験を継続して実施